

■「効果の見える治水事業」

香川県 番屋川（東かがわ市）の治水事業

『番屋川総合流域防災事業』

香川県長尾土木事務所長

よこやま しょういち
横山 晶一



番屋川は、東かがわ市旧大内町の三殿から東に流れ、国道11号付近で北に流路を変えて、楠谷川、北川等の支流を東へながら瀬戸内海に注ぐ指定延長約4.6kmの二級河川です。

番屋川における河川改修の歴史は古く、1期工事として河口からJR高徳線までの下流域約1.8km区間について、昭和38年度に着手し、昭和63年度に整備を完了しています。

しかしながら、中流域から上流域において、昭和51年9月の台風17号等により、幾度も浸水被害を受けたことから、引き続き上流部の改修を計画し、平成3年度より、現計画区間のJR高徳線から高松自動車道上流までの約2.3kmの整備を進めているところです。

近年においても、平成16年10月の台風23号時には、主に未改修区間の流下能力が不足している箇所から越水し、約200戸の浸水被害が発生しており、地域住民からも、早期の整備が望まれています。

現在の整備進捗状況としては、平成28年度末時点で、計画区間2.3kmのうち、高松自動車道までの間約2.1kmの整備を完了しています。

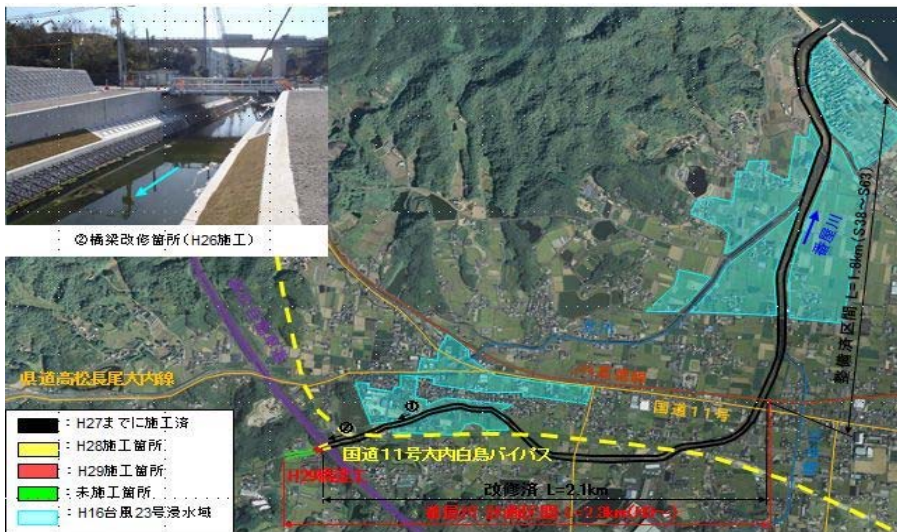
河川改修では、川幅を広げるとともに、支障となっている固定堰等を撤去して、河床を下げることで、河川の断面積が約2倍となり、大幅に流下能力の向上を図っています。

今後も河川環境に配慮しつつ、浸水被害を早期に軽減できるよう、河川改修に取り組み、災害に強い安全・安心な郷土づくりを目指します。

位置図



①平成16年10月台風23号出水による被災状況



安全・安心な暮らしの確保

東かがわ市長 藤井 秀城



東かがわ市は、香川県の東端に位置しており、東南は東西に連なる阿讃山脈によって徳島県に接し、西はさぬき市に隣接、北東は国立公園瀬戸内海播磨灘に臨み、高松市と徳島市のほぼ中間に位置する自然環境に恵まれた、総面積 152.83km² で人口 31,031 人の市であります。

瀬戸内海に注ぐ馬宿川、小海川、新川、湊川、与田川、番屋川などの流域に平地が開け、市街地と田園地域を形成しており、比較的晴天の日が多く降水量が少ない瀬戸内海特有の温暖少雨の地域であります。

地場産業としては、全国シェアの9割を超える手袋の産地であり、はまち養殖産祥地、和三盆糖などの伝統を今なお受け継ぐ、伝統と文化、魅力あふれる市です。

本市は平成16年10月台風23号により、甚大な被害を受けました。番屋川においても、溢水による浸水被害が発生し、防災活動にも支障をきたしました。

その後、香川県による番屋川総合流域防災事業によって、河道改修、護岸整備、取水堰の改築により、治水能力が大幅に向上されつつあります。

一方、市では防災・減災対策の取組みとして、土砂災害警戒区域等における住民参加型の実践的な防災訓練を行い、地域の危険箇所を巡り、実効性の高い避難のあり方などを考えました。加えて、防災士を講師とするワークショップを開催し、災害時の医療や行政の対応、ハザードマップの役割のほか、大規模地震を想定した避難所の開設と運営に関する手順などについても学んでいます。

今後も、安全・安心な暮らしの確保のため、自助・共助の積極的な取組みを推進し、防災・減災対策に取り組みます。また、地域との連携による災害時要援護者支援などのソフト事業を推進するとともに、引き続きハード事業による災害に強いまちづくりに努めてまいります。



土砂災害訓練



番屋川整備状況